私と彼と彼？

楓　紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私と彼と彼？

【Ｎコード】
Ｎ０１４７Ｄ

【作者名】
楓　紅

【あらすじ】
幼い頃に結婚の約束をした可愛い男の子との思いでもつかの間、私は二十歳になってしまった。ＯＬの仕事をやめる決心とともに公園に・・・。泣いている男の子を助けて、自分が大変な事に！

ＯＬ辞める

小さい頃・・・隣に住んでいた男の子と約束したの。

大きくなったら、結婚しようね。って。

けれど、その時、約束した男の子は、数日後、引越しをして、居なくなった。

あれから、私は、大きくなり、二十歳になってしまって、ＯＬをやっている。

今日も仕事・・・なんだけど、やりがいを感じないので、ズル休みをしたｖＶ

「ハァ；もう、やる気しない；・・・今の仕事に止めようかなぁ？」

私は、人に言われるでもないく、めんどくさがり屋。

自分にやりがいがないと感じたら、即止めるのである。

お金？大丈夫！私の父と母は、医者と看護婦だから！

まぁ、金だけはある家庭だから、私が仕事をなくしても困りはしないのだ。

止めようと考えておりますが、今、私は、公園に来ている。

そう。ここは昔の思い出の公園。

あの日の男の子には、会えないだろうけど・・・。

男の子「えーん！」

「？どうしたの？」

男の子「風船が・・・木に引っかかっちゃって；」

スッ

男の子が指す方向には、赤い風船が引っかかっていた。

「あれか。よし！お姉さんが取ってあげる！」

男の子「え？」

ヒュッ！

私は、木登りや体を動かす方が得意だったので、風船の引っかかっている木に軽々と登る。

男の子「あ・・・危ないよ！；」

「平気！少し前だって、これよりも高い木に登ったんだから！」

そして、風船が手に届きそうな所に来たので、ゆっくりと伸ばす。

（もう少し・・・。）

パキパキッ

そんな時、私の耳に・・・嫌な音が響いた。

バキッ！

男の子「！お姉さん！」

ドサッ！

「いた・・・くない？；」

男性「・・・危ないな。女性が木に登るものじゃない。」

ストッ

ゆっくりと私をお姫様抱っこして居る男性が降ろしながら言う。

「え？・・・ごめんなさい；あ！はい！これ。取れたよ？」

ニコッ

男の子「ありがとう！お姉さん！」

ニコッ！

タッ

男の子は立ち去っていってしまった。

男性「・・・君は仕事はしていないのか？」

「・・・は？何？」

男性「君は仕事に行かないのかと聞いている。」

「助けてくれた事には礼を言うけど、貴方に私の事を話さなければいけない理由でもある？」

男性「・・・ないが。」

「貴方だって、私と同い年ぐらいでしょう？こんな時間にこんな所にいるなんて、恋人もいないのね？」

男性「・・・昔、ここで会う約束をした女の子がいてな。君みたいに腕白だった。」

「ふーん？その子の名前は？」

男性「それこそ、答える必要があるか？」

「ムッ！・・・結構です！助けてくださってありがとう！」

男性「・・・あ！待って。名前は？」

「・・・形原結花。どう？昔の女の子と名前は同じ？」

ニッコリ

男性「・・・名前は聞かなかったんだ。」

「は？」

男性「俺の名前は、植村満。また、どこかで会える事を願ってるよ。お転婆おばさん。」

スッ

「・・・おばさん？！腕力はあっても、人を助けない心の冷たい人間には言われたくなかったわね！」

一生懸命、叫んでみたが、それが聞こえたかは分からない。

この男性が、私の思い出の人物だと知るまではまだ先の話。

美男子登場

あれから、私は、公園から立ち去って今は知人のカフェにいる。

「どう思う?!速水さん?!」

そして、公園であった謎の男の話を聞かせていた。

速水「はいはい;分かったから;少し落ち着いて、コーヒーを飲んでくれないか?」

「むぅ!全然、人の話、聞いてないでしょ?!」

速水「聞いてたよ;思い出の男の子らしい男性にコケにされて、ＯＬを止めるに止めれないんだろ?」

「?!そんな事、言ってないもん!辞める!ＯＬの仕事は絶対に辞める!」

速水「ハハハ;また、辞めるのか?;男性に言われた事、むかついたんじゃ?」

「むかついたよ?けど、ＯＬをやる理由もないじゃん!」

速水「やりなさい;」

この人は、カフェ「ノルン」の店長で、三十路の速水神楽さん。

ちょっといない感じのかっこいい人。

「けど、小さい頃にあった男の子と全然、違うんだもん；」

速水「別人なんじゃ？それか、小さい頃なんだから、髪の毛を染めたりとかオシャレもするはずだし？」

「・・・私は、耳にピアスを開けたぐらいなのに？；」

速水「小さい頃から、そのまま大人になる人間がいたなら、逆に見てみたいよ；」

「えぇ；・・・けど！まだ、あいつが思い出の男の子だって決まった訳じゃないから！」

速水「はいはい；」

カランカランッ

速水「いらっしゃい。」

時雨「よ！神楽。お。結花ちゃんも来てたんだ？」

ニッ

時雨恵里。女っぽい名前で、このカフェで歌っているボーカリスト。

年は２６歳で、まぁ、モてる顔をして居ると思う。

時雨「結花ちゃん！また、仕事を辞めたって？；」

「“また”って言わないでよ?；私に合う仕事を見つけられないの；
」
時雨「スポーツインストラクターとかになれば良いじゃないか?」
「えぇ?あれって凄く厳しいんでしょ?私、辛いのは嫌。」
時雨「わがまま。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0147d/

私と彼と彼？

2010年10月8日14時38分発行